

第62回試験研究成果発表会

(夏季の高温乾燥環境における野菜・花き類の施設栽培技術対策) 発表概要

【日 時】 令和7年2月21日(金) 13:10 ~ 16:30

【場 所】 農林総合研究センター大会議室(千葉市緑区大金沢町180-1)

発表1 成果発表

施設花き栽培における猛暑対策 ~遮光資材の活用で温室内の光と温度環境を快適に~

花植木研究室 中島 拓

施設花き栽培の暑熱対策として取り組みやすい技術の1つに遮光・遮熱資材の設置が挙げられます。従来の資材では、遮熱性を高めるには遮光率を高める必要がありましたが、近年は光を透過しつつ遮熱性の高い資材が多くメーカーから販売されています。そこで、それらの資材の特徴と、実際に展開した温室の環境と花き類の生育に及ぼす影響を紹介します。また、積極的に栽培環境を冷やす方法として、育苗中の夜間冷房の効果についても紹介します。



光の透過性が高い遮光・遮熱資材



夜間冷房によるパンジーの育苗
(左:冷房、右:無冷房)

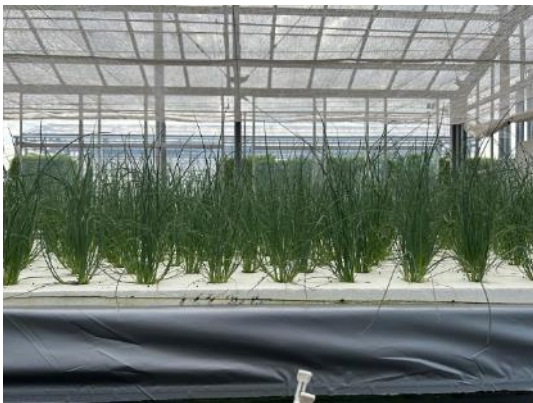
発表2 成果発表

葉ネギ水耕栽培における猛暑対策

～強まる高温環境には井戸水を活用した効率的な養液冷却を～

野菜研究室 大里 俊一朗

葉ネギの水耕栽培における夏期の高温対策として、培養液の液温や溶存酸素濃度、無機成分濃度の影響を検討したところ、栽培ベンチ内に井戸水を通水した管を設置して養液を冷却する手法の生育改善効果が最も高く、増収効果が確認できるとともに栽培期間が短縮されました。実際に行った栽培試験の結果を基に各種対策技術を紹介します。



葉ネギ水耕栽培



高温による根傷

発表3 成果発表

施設トマト黄化葉巻病・黄化病対策を考慮した猛暑対策

～通風性防虫ネットの利用でウイルス対策を行いながら高温対策～

病理昆虫研究室 中山 大誠

夏季ハウス内の温度環境を考慮したトマト黄化葉巻病・黄化病対策を検討しました。媒介虫であるコナジラミ類の侵入防止対策として、0.4mm 目合い防虫ネットと同等以上の侵入抑制効果を有し、かつ通風性に優れる機能性防虫ネットを選定しました。「開口部のネット展張」、「伝染源がない期間の設置」、「発病株の除去」、「週1回程度の薬剤散布」の総合的対策を講じることで、発生を抑制できましたので紹介します。



媒介虫のタバココナジラミ



トマト黄化葉巻病の症状

発表4 情報提供

実効的なコナジラミ対策は【ソレ】を徹底するかしないかで決まる！

～トマト栽培における総合防除の現地実証事例～

担い手支援課 専門普及指導室 清水 健

令和6年度、千葉県におけるトマトの主要な作型である抑制栽培においては、害虫コナジラミ類によって媒介される黄化葉巻病などのウイルス病が大きな問題となりました。これまでも紹介してきた防虫ネットや殺虫剤処理などの対策技術を適切に組み合わせて実施するとともに、特に育苗期から定植に至るまでの初期防除を徹底することで、現地実証圃において発病を抑えた栽培成功事例が得られましたので、紹介します。



黄化葉巻病の発病



ウイルス病を媒介するタバココナジラミ

発表5 情報提供

猛暑に負けない促成トマトの育苗から定植直後の栽培技術

野菜研究室 大里 俊一郎

育苗期が高温期となる促成トマトにおいて、花芽に障害が出る要因は40℃程度の高温という直接的な影響より、培養土の過乾燥や過湿により窒素や石灰の吸収が安定しないことが強く影響していることが分かりました。夏期に適した培養土の選択や低濃度液肥の利用といった育苗技術や定植直後の高温対策技術などを紹介します。



トマトの育苗



肥料欠乏のトマト

発表6 情報提供

猛暑に負けないハウス抑制トマトの栽培技術

野菜研究室 大木 浩

近年、猛暑により、ハウス抑制トマト栽培において生育不良や障害果が多発しています。収量を減らさない遮光資材の使い方や、中段の着果を安定させる摘果方法、裂果を抑える整枝方法などを紹介します。



ハウス抑制トマト栽培



遮光ネットの展張